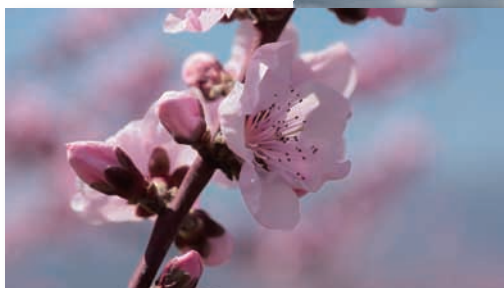
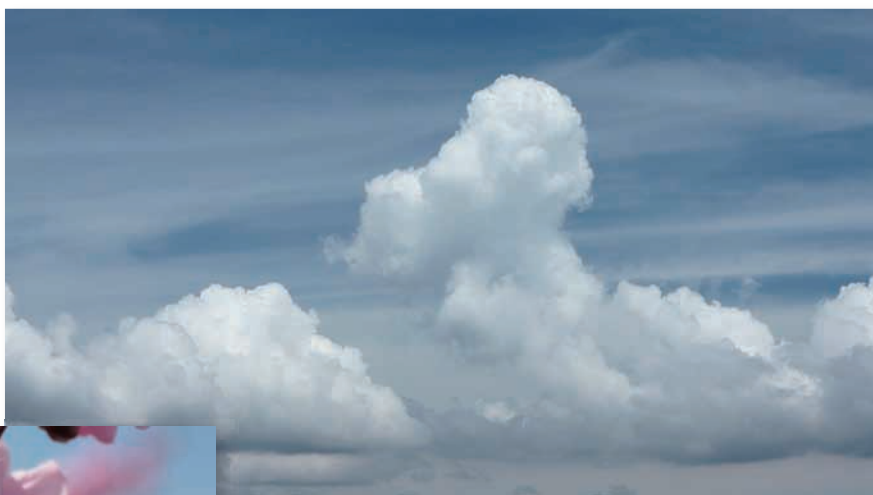


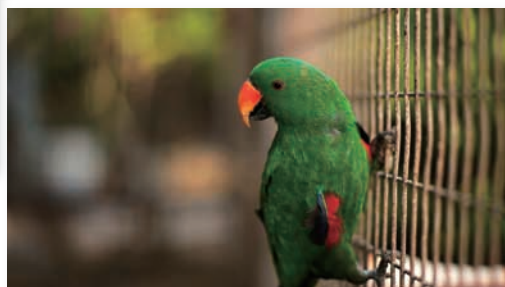
白側の階調が 放送用カメラ以上

ビデオカメラでは放送用であっても、白側が飛びやすいが、EOS 5D Mark IIは、白側の階調が確実に出ており、この雲の映像も余裕で表現している。



ボケを生かした 撮影

発売当初から言われているが、ボケの美しさは圧倒的。今回、ファームアップにより、絞りを任意に決められるようになり、被写界深度をコントロールできるようになった（P.46-47を参照）。



● これまではDVCPRO HDがメインでした。機材は、放送用のパナソニックAJ-HDC20AとHDX400A、この2台はショルダータイプで、専用の水中プリンプもあります。小型カメラは、パナソニックのHVX205A、ソニーFX1などがあります。DVCPRO HDはたしかに解像度は1280×1080とHDVよりも低いのですが、ネイチャー映像では決して1920フルHDに引けをとらな

— ということは、何よりも画質重視というわけですね。現在の収録のメイン機材とフォーマットは？

● ハイビジョンでの水中ビデオ・海の映像を中心として、国内海外のネイチャービデオ、風景映像、環境ビデオ、観光・旅行映像等、独自に取材を行なつて収録しています。撮影した動画素材はビデオライブラリー化して、デジタルサイネージ用コンテンツ、博覧会やイベント会場での大画面映像、ネット動画用の素材として使われています。また、メーカーの画質評価用や製品デモ用の素材としても使われています。

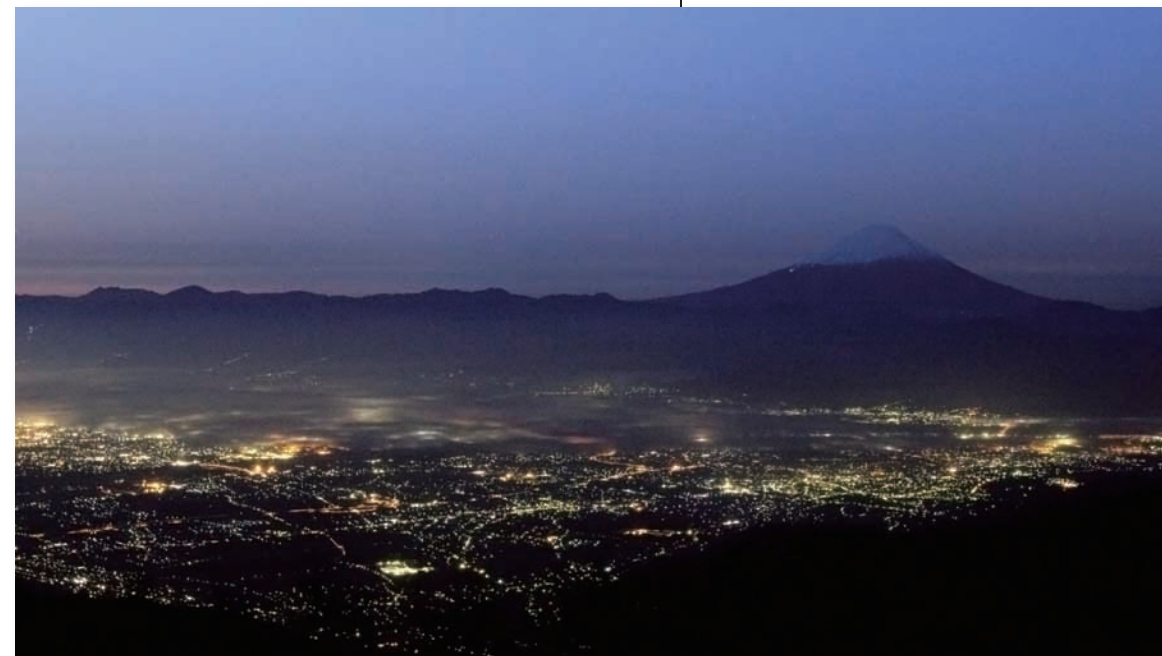
— アクアジオグラフィックの具体的な業務内容を教えてください。

● 5Dマーク2に完璧なものを求めているわけではないんです。放送用カメラだって、欠点がありますし、それぞれ欠点を知った上で使いこなすことが重要でしょう。放送用カメラの2/3インチマウントは、ズームレンズはありますが、単焦点レンズはシネ用でひじょうに高価ですから、スチルのレンズを使えるなら、かなりのメリットはあるだろうと思います。

たとえば5Dマーク2はマクロ撮影では強みを発揮します。放送用のシステムでは、マクロレンズを用意してないもので、それこそ撮れなかったものが撮れるようになります。しかもDVCPRO HDの素材に混ぜてもわからないくらいの高さです。マクロに限らず、ボケ味を生かした映像というのは、放送用ビデオカメラでも得られないものです。それで特に

— これまで放送用カメラで収録されてきた佐藤さんが、EOS 5Dマーク2に興味を持たれたというのはどういう点でしょうか？

● 高画質を見せてくれます。またフレーム内圧縮なので、暗部を持ち上げるなど加工したときにノイズが発生しにくいなど、編集時の耐性が高く、さすが放送用フォーマットだと思います。



これは動画撮影の一コマではなく、静止画のインターバル撮影を微速度HD動画にし、その一コマを抜き出したもの。ひじょうにS/Nの良い、クオリティの高い夜景映像が得られる。

EOS 5D Mark IIを プロは どう 評価するか？

放送用 カメラでも 撮れない映像が 撮れるカメラ



動画撮影のカメラは、これ一台というオールマイティを求めめるのではなく、表現に合わせて、選び分ける時代になってきた。EOS 5D Mark IIは、表現のための一つのツールとしてプロの間で地位を確立しつつある。

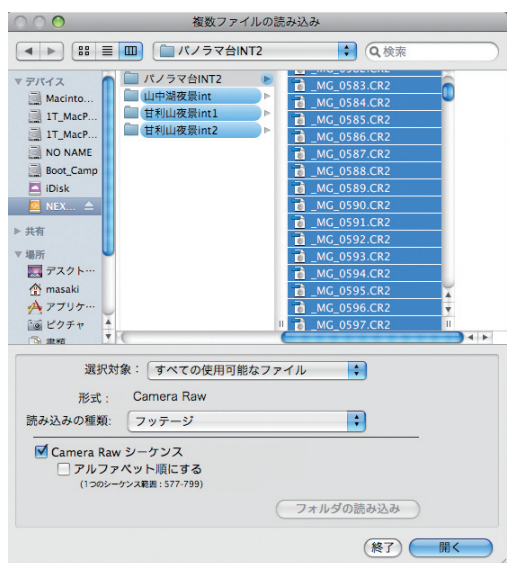
聞き手◎編集部



◀アクアジオグラフィック
佐藤 宏さん

水中映像を中心に、国内、海外のネイチャー映像のライブラリー事業を展開している。EOS 5D時代からスチルカメラのインターバル撮影素材を動画化するなど、積極的にデジタル一眼レフを活用している。YouTubeのChannel AGG（「Channel AGG」で検索）で動画サンプルを多数公開。
<http://www.aquageographic.com>

アフターエフェクツで インターバル撮影した素材を読み込む



アフターエフェクツで、インターバル撮影した一つの静止画データを読み込んでいくところ。これを4Kサイズに切り出し、連続させて書き出すことで4K映像ができあがる。4Kの動画カメラがなくても、4K映像を作り出すことができるというわけだ。



なれば、すごい世界になると思いますが、たとえHDにするにしても、インターバル撮影で収録したのからHDにダウンコンバートしたもののほうがクオリティが高いですから。大きい画像で撮っておいて、最終的に使うサイズにダウンコンバートすればいい。

最近、インターバルで撮る人が増えてきたような気がします。これまでのカメラは36枚の連写で終わっていましたが、32GBのCFカードを入れれば、何千枚と撮れます。そうなってくると、デジタル一眼レフカメラの使われ方も変わってくると思います。

——インターバル撮影の素材は使えますか？

● 次のコーデックはぜひ Motion JPEG 2000 (Wavelet) を採用してほしい。スチルの分野ではプロとアマチュアにフォーマットの違いはないのですが、映像の世界ではいまだにあります。動画の潜在能力はひじょうに高いので、ぜひプロ用のコーデックを採用してほしいですね。

それからHDを超えた画素数の進化にも期待します。最近、私の仕事では4Kの映像が求められてきています。4Kが撮れるRED ONEにしても

● クオリティは高いです。ノイズは少ないですし、夜景はもう完全に5Dマーク2のインターバル撮影が優秀で、いまや放送用カメラで夜景は撮らなくなりましたね。

——お使いのレンズは？

● EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM を愛用しています。キヤノンの望遠系は優秀ですね。それから今回EFL24-70mm F2.8 USMをテストで使ってみました。24mm側で開放での描写は、想像以上に良い画質でした。

——今後、デジタル一眼レフのムービーはどのような方向に進化してほしいか、リクエストはありますか？

ムービーとスチルと区別はありません。写真の連写が30枚になれば動画になるわけですから、動画とスチルを分ける意味がなくなってきました。

一眼レフでは、さすがにすぐにといいわけにはいかないでしょうが、無理に放送の世界に押し込めるのではなく、それを超えて進化してほしいのです。

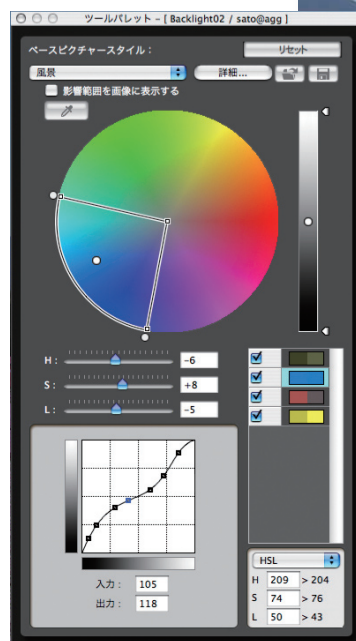
大きいサイズで高クオリティで撮っておいて、あとは用途に合わせて、サイズを整えたり、圧縮をかければいいのですから。



連写していると、あっという間にCFカードがいっぱいになってしまうので、撮影現場でモバイルHDD (NEXTO eXtreme 320GB) にバックアップする。



ピクチャースタイルを 活用して 撮影したい



Picture Style Editorで自分の設定を作ることができる。トーンカーブで、ガンマカーブ(ニーカーブ、ブラックストレッチ)を自由自在にいじれる点がポイント。これは100万円のプロシューマーカーカメラにもない機能だ。自由自在にいじれる分、とんでもない設定もできてしまうので注意したい。使い方に慣れるまでにはかなり試行錯誤が必要。上の作例では暗部を持ち上げたピクチャースタイルを適用させ、逆光補正を行なった。静止画と動画ではトーンも違うので、動画専用のモードをぜひ設定してほしい。現在はユーザー登録が3種類しかないが、もっといろいろな撮影条件、被写体条件を想定して登録できるように、登録数をもっと増やして(10種類くらい)ほしい。

● そうなんです。私の場合は今まで放送用カメラが苦手としてきたところを部分的に補うという使い方をしています。夜景などでは、放送用の高倍率ズームは、開放の広角側では、周辺の収差がかなりあるんです。倍率を重視して無理な設計をしているので、仕方がない部分です。それが5Dマーク2で明るい単焦点のレンズを使うと、放送用の200万円のレンズよりも、収差に関しては性能がいいんです。

ちなみに、夜景での撮影の方法ですが、静止画はS/Nが完璧なのですが、動画はちょっと黒側を持ち上げるとノイズが目立ちやすいので、黒をつぶしたほうが好印象ですね。

逆に白側のトーンはよく出ます。高輝度階調優先をONにして撮影すると思います。雲の白トビを抑えた

—— たしかに5Dマーク2の動画はこれ一台でオールマイティというタイプではないですね。

● はい。動画の場合は、RAWで撮影できないので、撮影時にできるだけトーンを作りこんだほうがいいと思います。Picture Style Editorというソフトで、ピクチャースタイルが自作できるので、たとえば逆光補正用にトーンカーブの暗部を持ち上げ、明部を落としたもので撮影したりします。

—— そのほかの使われ方は？

● 連写で動画を撮ったりしています。インターバルだと1秒に1枚。連写だと秒4コマ。RAWではなくJPEGなのですが、それで連続3分くらいなら撮れる。そうすると、ハイビジョンより画素数が多い、それこそ4Kのインターバル映像が得られるのです。

—— ラージですと、5616x3747ですから、4K動画の4096x304は充分カバーしていますね。

● それが将来、秒4コマが秒30コマに



シャッタースピードを1/50秒に固定してフリッカーを防ぐ

前項で取材した佐藤宏さんに、さっそくマニュアル操作可能なEOS 5D Mark IIを使っていただいた。作例は三社祭りを撮影したもの。フリッカーを防ぐためシャッタースピード1/50秒に固定して撮影した。



ISO感度もマニュアルで設定

ISO感度の設定範囲は、Auto、ISO100～6400とH1（カスタムファンクションでISO感度拡張を「する」に設定した場合）まで、H2とLは効かない。シャッターとアイリスをマニュアル、ISOをAutoといった使い方もできる。Autoにした場合でも、ISOの数値が液晶に表示されるので、安心できる。

協力 ● キヤノン株式会社
● キヤノンマーケティングジャパン株式会社

以外のシャッターでは、フリッカーが出てしまうが、マニュアル設定でそれを防ぐことができた。これで撮影の自由度は飛躍的に向上する。実際に使ってみた印象もよかったようだ。感心した点としては、「動画のスタンバイ状態でもISOの変更が比較的簡単にできるところでしょうか。本体上部のISOボタンを押すと背面液晶にISOが表示され、ダイヤルを回して決定できるので、慣れれば比較的『ISO』の操作ができると思います」ただ、注意したいのは、撮影中に絞

りを動かすことはできても、滑らかに明るさは変化しないこと。そこはビデオカメラと違う部分である。シャッタースピードは1/30から1/4000秒まで設定できる。これについては、ぜひ1/30秒より遅いシャッター（蓄積モード）も欲しいとのこと。画質が落ちてもいいので、明るいレンズとISO H2モード、スローシャッターの組み合わせで、蛍のような発光生物の映像が撮りたいという。プロでも高感度ビデオはなかなか使えないので、動画ユーザーに開放されると、用途はさらに広がるだろう。



ユーザーの声がメーカーに届いた!

動画でもフルマニュアル撮影が可能になった

レポート◎編集部

これまで動画撮影では、フルオート撮影しかできなかったEOS 5Dマーク2。静止画撮影用のカメラとしてだけでなく、動画撮影機能が、想像以上に注目を集めてきた。本誌ははじめ多くのユーザーは、当初からその潜在能力の高さに着目し、評価し、「ぜひマニュアル撮影できるように」と訴えてきたが、それがついに実現。無償のファームウェアによって、このファームウェアによって、デジタル一眼動画は、本格的なスタートを切ったと言えるだろう。

ファームアップしたEOS 5Dマーク2を、前項で紹介した佐藤さんに使っていた。これまでフルオートでしか使えなかっただけに、これでプロが「普通」に使えるようになったわけだ。もちろん、なるべく開放側で撮って背景をぼかしたという時には、アイリスを開けきみにするわけだが、そ

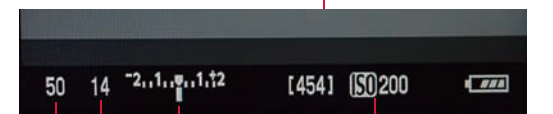
ういう設定も当然のようにできるようになる。使用できるのは、Mモードとなり、ISO感度も自由に設定できるようになった。シャッター優先、絞り優先は従来どおりオートでの撮影となっている。左ページの作例であるように照明が蛍光灯の場合、1/50、1/100秒



マニュアルモードにする
動画でのマニュアル操作が動作するのは、シャッター優先(Tv)、絞り優先(Av)ではなく、マニュアル(M)のみ。

ライブビューにする

動画の場合は、ファインダー撮影ではなく、背面の液晶を見ながらの撮影(ライブビュー)になる。これは従来どおり。



ISO設定
ダイヤルでコントロール
シャッタースピードは、前のダイヤル、アイリスは背面ダイヤルで設定できる。露出のアンダー/オーバーも±2段階で確認できる。